特集 環境保全を考える

夏になると町内に咲き誇る町の花「ひまわり」。
実は環境保全に一役買っているのを知っていますか。
今回は、地球に優しい松前町の取り組みを通して、
環境保全のために私たちができることを
一緒に考えていきましょう。

バイオマス推進事業

町では、平成18年度から「えひめバイオマスプロジェクト」のモデル町として、再生可能で地球に優しい有機性資源を使ったバイオマス推進事業を進めています。

この事業に取り組む人が増えると、より多くのごみが資源化されるなど、松前町の環境も良くなっていきます。

まさきのバイオマス 1

ひまわりと食用油から車の燃料を生み出す

町では、ひまわりの種から搾油したひまわり油と、家庭の使用済み食用油を活用してバイオディーゼル燃料に精製し、公用車や町内を走るひまわりバスに利用しています。

バイオディーゼル燃料を使っても、地球温暖化を引き起こす二酸化炭素が増えることはありません。なぜなら、放出される二酸化炭素はもともと、ひまわりの光合成によって大気中から吸収したものだからです。

そんな環境に優しいひまわりを栽培しているのは東古泉・中川原地区の皆さん。子どもから大人まで、みんなで協力して取り組んでいます。

ひまわり油ができるまで

1 播種

5月27日に東古泉で行われた播種作業。定植に向けて小さな種を苗に育てます。

2 定植

育った苗を丁寧に植えていきます。6月17日に東古泉で行われた定植作業では、伊予高校の生徒52人と子ども5人を含む地域の人46人の計98人が参加しました。

作業に参加した、伊予高校2年生の河内裕里さん＝筒井＝は、「腰が曲がりそうなくらいの重労働。そんな作業を年配の人たちが頑張っていてすごいです。自分たちが植えたひまわりで、環境が良くなると聞いてうれしい」と誇らしげな笑顔を見せていました。

3 刈り取り

7月末から見ごろを迎えるひまわりを楽しんだ後、8月下旬ごろに刈り取りを行います。

4 種を搾油

刈り取ったひまわりから種を集めて搾油し、ひまわり油をつくります。

ひまわり油の活用

ひまわり油にはオレイン酸とビタミンEが豊富に含まれており、動脈硬化を予防したり血行を良くしたりする効果があります。
またビタミンEは「若返りのビタミン」と呼ばれ、肌のしみやしわ防止に効果的です。

できたひまわり油は食品分析センターで品質を確認。その後、保育所の給食や文化祭で活用します。

食用油

調理で油を使った後は、その油を回収BOXへ持って行きます。

回収BOX（執務・営業時間内）
役場、東・西・北公民館、まさき村（エミフルMASAKI内）、ダイキEX松前店

回収した油を変換施設でバイオディーゼル燃料に精製し、公用車やひまわりバスに利用しています。
バイオディーゼル燃料はガソリンより燃費がよく、従来の軽油と比べて排ガス中の有害物質が少ないという利点があります。

◎ 29年度実績

ひまわりの種収穫量
→ **1,690** キログラム
ひまわりの種から搾油した油
→ **90**リットル
回収BOXで回収した油
→ **4,147**リットル
（前年度比　**732**リットル増）

年間で二酸化炭素 **1,330**kgの削減効果
（29年度）

まさきのバイオマス 2

せんてい枝を堆肥にして農地で活用

回収

堆肥化

農地で利用

町では、せんてい枝や草は可燃ごみとして焼却していません。資源ごみとして分別収集し、北川原にある「有限会社あぐり」で堆肥に変換し、町内の農地で利用しています。
松前校区は第2・4金曜日、北伊予・岡田校区は第2・4水曜日が、せんてい枝の回収日です。下記にせんてい枝の出し方を載せていますので、この機会に日ごろの出し方を見直し、資源化に努めましょう。

◎ 29年度実績

せんてい枝の収集量
→ **833**トン
変換できた堆肥量
→ **726**トン
（前年度比　**36**トン増）

出し方

- 枝打ち処理済みのせんてい枝は、1人で持ち運びができる程度の重さにしてひもで縛って出してください。
- 枝打ち処理したときの葉、枯葉や雑草は、土をよく払い落として、透明か半透明の袋に入れて出してください。

分別方法

- 枝打ち処理した直径10センチ未満、長さ1メートルまでのもの
- 枝打ち処理したときの葉
- 枯葉、雑草

※ 柱や板など加工したもの、直径10センチ以上のものは可燃ごみ（指定袋に入らなければ粗大ごみ）。
※ たけのこの皮、ソラマメの茎やさや、さつまいものつるなどは可燃ごみ。

まさきの
バイオマス 3

新たに取り組む廃棄系バイオマス

生ゴミ減量 リサイクルモデル事業

可燃ごみは、処分に燃料を使い、多くの二酸化炭素を排出します。地球に優しいまちづくりを進めるためには、可燃ごみを減量することが大きな課題です。

皆さんは、家庭から出る可燃ごみの20パーセント程度が、生ごみなのを知っていますか。可燃ごみを減量するためには生ごみを減量することが有効なのです。

そこで町では、新たなバイオマス推進事業として食品廃棄物の利活用を検討しています。ここでは、東古泉地区をモデル地区とした試験的な取り組みについて紹介します。

ふた付きバケツだから
臭いも気にならない

各家庭で生ごみを専用バケツに入れ、可燃ごみと分別します。

可燃ごみの日に、生ごみを専用のポリバケツに直接入れます。

有限会社あぐりがポリバケツを回収。専用施設で堆肥に変換します。

変換された堆肥は、家庭や農地で活用します。

◎ 29年度実績（H30.3.19～ 29）

東古泉地区の約半数に当たる **93**世帯延べ **254**人が参加。

可燃ごみが **329**キログラム減少し、同量の生ごみを **232**キログラムの堆肥として資源化。

Interview

池内重男さん ＝東古泉＝

この事業を始めてから、可燃ごみの量が目に見えて減りました。最初はポリバケツの置き場など課題がありましたが、実際に始めてみると、地域の人たちも嫌がらず協力的に行っています。負担を感じることなく続けられると思います。

ポイ捨てごみのない きれいなまちを目指す

ボランティア清掃

これまでバイオマス推進事業について紹介してきましたが、ごみを拾って景観を保つことも重要な環境保全です。

町では、個人や団体が清掃活動をするときに事前に申請することで、ごみ袋の支給と集めたごみの回収を行っています。

ここでは、そんなボランティア清掃について紹介します。

連絡を受けた職員が、集められたごみを回収します。

申請書に記入した場所を清掃します。ごみを集めたら町民課生活環境係（985-4117）に連絡してください。

町民課生活環境係の窓口で申請書を記入し、ごみ袋をもらいます。

◎ 29年度実績

各地区や老人クラブをはじめ、個人を含む **49**団体延べ **5,271**人が参加
合計 **5,518**袋のごみを収集。

Interview

別府和幸さん ＝松山市＝

３年ほど前からボランティア清掃を始めました。自分の時間があるときに、重信川の河口から塩屋海岸にかけてごみ拾いをしています。集めるごみは１時間で３～４袋ほど。そのごみ袋を「持って行こうわい」と一緒に運んでくれる町民の人もいてありがたいです。ポイ捨てごみのない、きれいな町になればいいと思います。

誰でも身近にできることが、環境保全につながっています。
地球にも人にも優しいまちを目指して
私たちにできることから始めてみませんか。